

ブナの^{きよぼく}巨木

- ◇ 指定日 平成10年10月1日
- ◇ 所在地 鈴子沢
- ◇ 所有者 末前森林生産組合

田老地域^{すずこさわ}鈴子沢にあるブナは、春日神社の鳥居から沢沿いに登った両側を沢にはさまれた小さな尾根の斜面にあります。根を露出し、岩に張り付くようにして^{そび}聳え立っています。幹の周囲約3m、高さ約30mを測り、推定樹齢150～200年とされています。

ブナは、日本の固有種で、別名をシロブナ・ソバグリ・ソバノキなどと呼ばれることもあります。日本の冷温帯に広く分布していて、葉などの変異が大きく、日本海側と太平洋側のものではかなりの差が見られます。樹皮は灰色でなめらか、また^{ちいるい}地衣類が付着して斑紋が見られます。

ブナは5～7年周期で種子が大豊作になります。これは種子が少ない年を作って種子を食べる食害者の数を減らし、豊作年に食べきれなかった種子が子孫を残す戦術だといわれています。

